

(有)赤羽精密

徹底した品質管理と 低コスト・小ロットから量産まで 幅広く対応可能

(有)赤羽精密(栃木県日光市、写真1)は、厨房用アイスビンや建築用のガラリー、塗装用治具、そのほか電子機器や医療機器関連などを複合機やファイバーレーザー、曲げ・溶接加工などで手がける(写真2~4)。最近導入したトルンプ製ファイバーレーザー加工機「TruLaser 3030 fiber-4 kW」多品種少量で銅やアルミニウムなどの難材や、ステンレスクリーンカットでは20 mm、鉄は25 mmまでレーザー加工で対応する。

作業効率化が課題に

1986年7月に独立。当時の従業員は赤羽文雄社長(写真5)ただ1人、セットプレスやシャーリング、35 tのプレスブレーキなどで板金加工をスタートした。1人だけでは営業と現場作業の両立が難しく、2年目からは5人程度を雇用了。自ら営業に走り、現場では従業員に板金加工の基礎から板金機械の加工技術などを親身になって教え込んだ。

90年にはアマダ製タレットパンチプレスを導入した。「これによって約3カ月で売上が3倍程度増えました。優れた機械さえあれば受注が増

えると改めて認識しました」(同)というように、設備力の重要性を強く感じた。加工品の種類や形状が増えるにつれて、金型の段取りにかかる時間や人件費、金型費用の負担が増大した。「実績を重ねて信頼が向上すると、さまざまな材質・板厚・形状の仕事が入ってくるようになり、作業効率向上の必要性に迫られました」(同)。当時は同業他社でレーザー加工機がブームとなりつつあった。そのために金型で段取りをする必要があるタレットパンチプレスよりも、業界全体で作業効率の改善などでブランク加工をレーザー加工機へ移管する流れがあった。ただ「当社に限らず、創業したばかりの会社でのレーザー加工機導入は資金面で難しく、まずは従来からの設備で売上増を図り、基礎体力をつけました」(同)。

レーザー加工機の導入で顧客拡大

地道な努力を重ね、97年には作業効率やコス



写真1 赤羽精密本社

会社概要

会社名	(有)赤羽精密
代表者名	代表取締役 赤羽文雄
所在地	〒321-2335 栃木県日光市森友 166-3
TEL	0288-21-0590
設立	1986年
従業員数	32人